此除地を地藏免と稱して此墓の供料とす只五輪の墓あるのみなり文字よめがたしかなかいとゝ稱して古へカナ殿と云る大名の住宅なりとて宅地塀の跡庭中泉水の跡など云所ありいかなる人なる也未詳

内牧城址及古墳

古墳二所一は城山の麓にあり一は鏡臺窪と云ふ所にあり里俗人穴と稱す千歳以上の古墳なり何人の墳なる也不考道雄案る

狩野介考

に曰里俗の傳にカナ殿と云る大名此村にすみしと云カナ氏と云る氏古今聞及たることなし狩野氏を訛りて云るにはあらざるか然いふ故は此郡の住士安倍七騎と稱る内に狩野氏ありて本郡落合村に子孫あり中古狩野氏此所に住せしにはあらざるか狩野氏は伊豆國より出たる事東鑑曾我物語に見えたれど太平記には當國の住人の内に狩野氏を出すその舊跡外に在所なければ此所に住せしならん又南方記傳二卷興國六年北朝康永三年妙法院宗良親王遠江國におはしましけるに國人背き侍りければ三河國東春か足助へ移し奉るべき由侍りける御返事に一筋に思ひ定めぬ八橋のくもでに身をもなげくころかなと仰せられて駿河國へ御座を移されけり彼國には狩野介貞長入道入江蒲原西二の宮方にて興良親王兼ておはしましけれは暫く其所に住せ給ふ其年も暮てまたの年の秋まて駿河國に御座有しかど味方に參る兵もなし角て信濃國へおはしますべきとて旅の御よそほひなど遊しければ狩野介其外の人々もさしつどひ夜もすがら御名殘おしみ奉り又夜深く越路の旅に趣かせむひけり興津と云所にて夜も也うやう明なんとするに海面へ波いと白う三保崎の松原霧のたえまにあらはれ月は有明にて光をさまる云々此文にてみれば此二皇子の御座狩野介の宅と聞ゆるに其地より夜深に出をむひて興津にて夜の明たるといふを以て考るに此ほとりより出立たまひしとして地理叶へり今本郡にも有渡郡にも狩野介の居宅と傳ふる所外になし然れば今此村なるカナ殿と云もの狩野殿の訛れるにて此宅地狩野介の宅地なりしこと疑なし又此村カナ殿の墓といふものに供田の除地四石あることも外に例なきほどの事にて古き大名の墓なること知べく又此山上なる古城跡も此人の據りし所なるべし再按るに宗長法師旅日記曰其時狩野宮内少輔と云もの遠州守護代職吉良殿の内巨海新左衛門尉この庄を請所として在城よき城をかまへ狩野と申合入部達

亂す然るに義忠自身進發八月より十一月まで狩野城攻らる同二十日に
せめ落され狩野生害す此宮内少輔は伊豆の狩野介一類武衛の狩野加賀
守當國郡代同名にして與力す結句加賀守息次郎生害させ家督となりて
當國心の儘に進退す是亦當方の力を以て如此されば安倍の狩野介謀叛
此山中甲州に續き責入がたくして三ケ年宮内少輔遠州數千軍兵を率て
此山中にうち入案内して悉責亡す今に靜謐其忠も亦異他なきにあらず
云々茲に云安倍の狩野介と云るをみれば前の考に云の人なることうた
がひなし前後の文をみるに狩野の亡びし年知がたし

池

池ノ谷 村の上の方池ノ谷といふ所にあり方二三町の池にて深きこと底
をしらず元祿年中漁獵の運上を奉りて鯉鮒の類を漁りしか請負人業に
あたらずとて元祿二年己十二月より漁獵の事をとゞめて今は溜池とな
る此池に神ありて不淨をにくむ少しもの不淨のもの此池に入れば必ず大
雨ありと云傳ふ旱の時雨乞して此池中に牛のかしらを切て是を入る事
ありと聞傳へしがさることあるべくもあらず思ひしが去る文化△年四

四月道雄此邊に來りし書ありしが其日村民大網を此池に入て漁すとて
引上し時なりしか牛頭の朽て骨ばかりになりたるを二ツまてあみにか
けて引上げたるを見たり是雨乞に入しものなることを知る

○幸庵新田 幸庵新田 かうあん

内牧村の前にて古く安倍川の芝地なりしを内牧村に幸庵と云るもの新
田となす此村の人内牧の十五像社のほとり馬別所と云る所にすみて此
村を開てうつりしとて今に内牧の十五像社を產土神とす高六拾壹石三
斗八升三合の村にて寺社なし

○安倍口新田 安倍口新田

幸庵につゞきて安倍川の西岸にのぞみて定式川除御普請所の村なり此
村も内牧中の郷二村の地先安倍川通荒廢の地なりしを志太郡相川村の
もの七人此所に來りて新田となす慶長年中の事なり奉行彦坂九兵衛よ
り下す所の古文書今に藏す安倍口と稱するものは古くは今の安倍川賤
機山の南に流れし時府より安倍郡山中に行には此村を以て始とす故に
安倍口の名を負しなるべし高三百四拾九石壹斗四升

熊野社　除地三石

相川村ゝうつし祭る社なりと云村民舊家は相川を以て氏とす

自在庵

昔この所に金林寺と云る寺あり則今川範政朝臣の菩提寺なりしが洪水に此地荒て廢村となる今自在庵その金林寺の舊地なりと言傳ふ

○與左衛門新田　與左衛門新田　よざゑもん

府の町年寄友野與左衛門開発する所なり高七十八石七斗四升七合與左衛門の傳は府中の部呉服町の條に明暦年中給る所の古文書をのす

神明社

幸竜安倍口與左衛門の三村は新田場にて山なし

駿河國新風土記安倍郡安倍川の西手越より與左衛門新田に至る

天保四己年四月十九日　稿成

三階屋仁右衛門道雄

（本書ハ静岡縣史編纂係室所藏本ニ依ッテ謄寫ス）

昭和九年二月廿四日

池田祐次郎書

昭和九年二月二十八日印刷
昭和九年三月三日發行

全八冊ノ內五
定價金壹圓也

著者　新庄道雄
修訂者　足立鍬太郎　靜岡市井宮町七二番地
發行所　志豆波多會　代表者　飯塚傳太郎
靜岡市新通五丁目七四番地　北村三郎
印刷者　池田祐次郎　靜岡市西門町七番地
製本者　荒木磯吉　靜岡市吳服町四丁目八番地
發賣所　靜岡谷島屋書店　振替東京六七八八九番

修訂駿河國新風土記

駿河國新風土記
志豆波多會

215
182

215
182